

平成 27 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

| | |
|--------------------|--|
| 研究領域名 | 海洋混合学の創設：物質循環・気候・生態系の維持と長周期変動の解明 |
| 領域代表者 | 安田 一郎 (東京大学・大気海洋研究所・教授) |
| 研究期間 | 平成 27 年度～平成 31 年度 |
| 科学研究費補助金審査部会における所見 | <p>本研究領域は、海洋の観測技術や数値モデリングの目覚ましい発展を背景にして、海洋科学の基本的かつ極めて重要な物理過程である海洋の鉛直混合という課題に正面から取り組もうとする挑戦的な提案である。月の公転軌道の変動によって潮汐に起因する鉛直混合が長周期で変動し、その影響が栄養塩の輸送を通して海洋生態系、さらには気候にまで影響を及ぼすという仮説は、我が国が世界に先駆けて発見し、その検証を進めてきたものであり、その独創性は高く評価できる。海洋物理学・海洋化学・海洋生物学・水産海洋学・気候力学などの研究分野を越えた連携によって構築される海洋混合学は、気候変動や水産資源の将来予測にも大きく貢献すると期待される。</p> <p>研究組織は、それぞれの分野で我が国を代表する計画研究代表者で構成されており、研究分担者には隣国との共同観測に実績のある研究者群が適所に配置されている。また、領域の全体目標に対応する三つの作業部会が設置され、計画研究や研究分野・手法の枠を越えて、領域全体としての共通の目的を達成するための仕組みが作られている点も高く評価できる。</p> <p>一方で、特定の分野・手法に偏ることがないように、研究分野間のバランスや連携に配慮した領域マネジメントが望まれる。</p> |